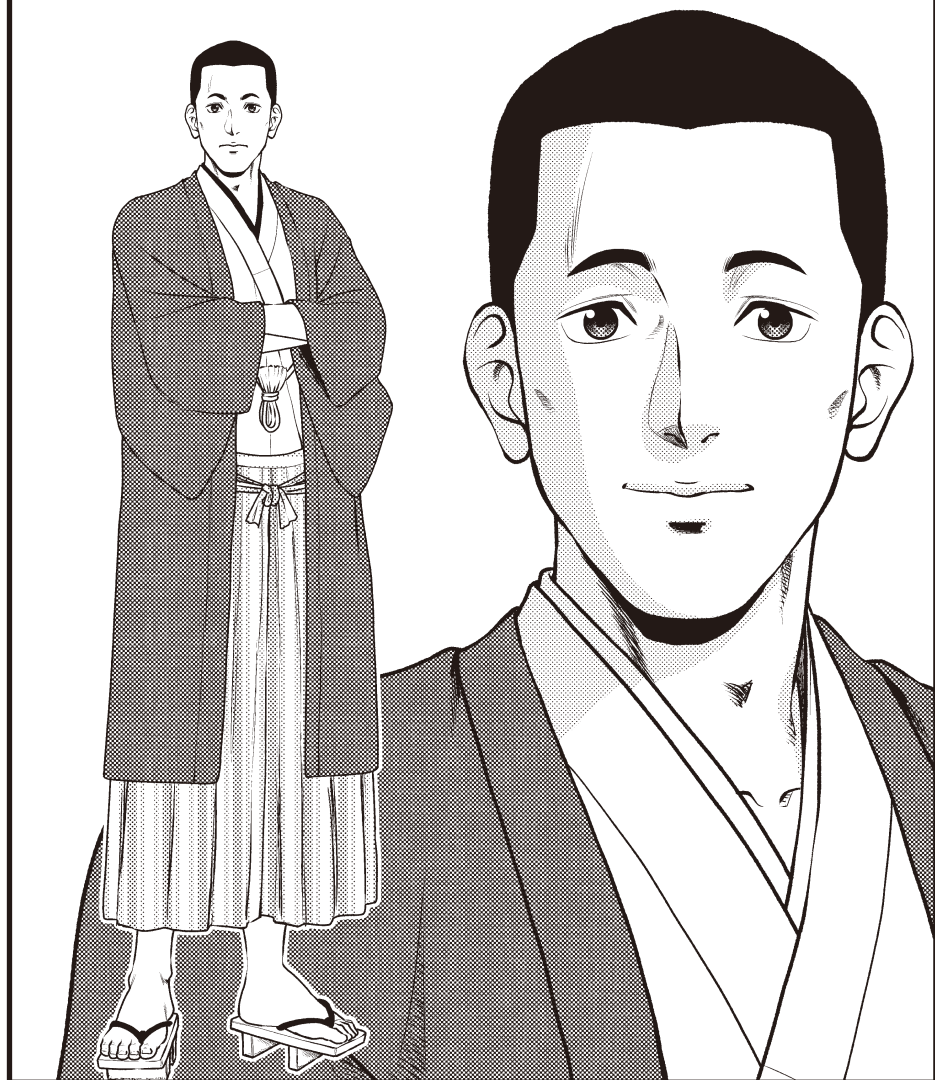


第2章

もう一人の創立者・小野光洋

変革へのパワフルな実行力



馬田誕生の13年後
1898(明治31)年

もう一人の
創立者――

山梨県

東八代郡

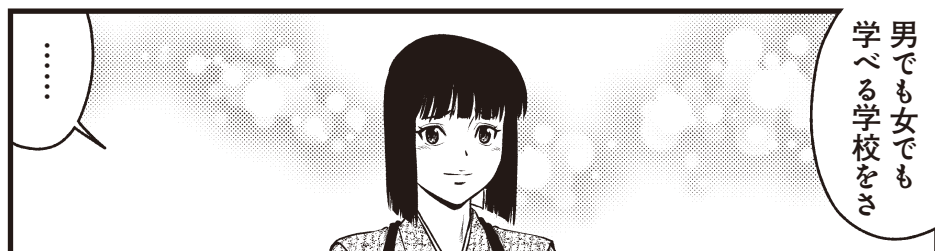
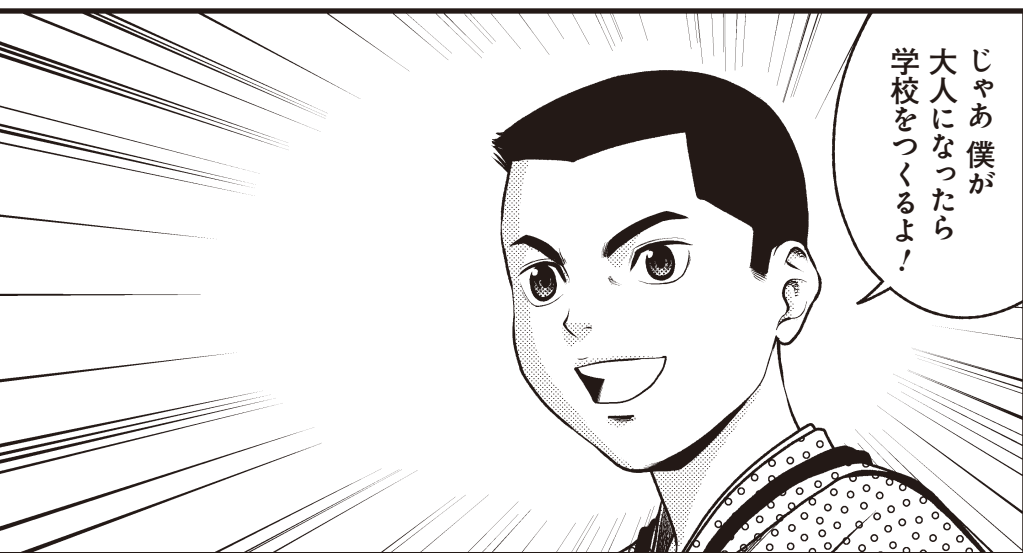
小野光洋(幼名・法)^{みのる}は
山梨県東八代郡
富士見村(現・笛吹市)

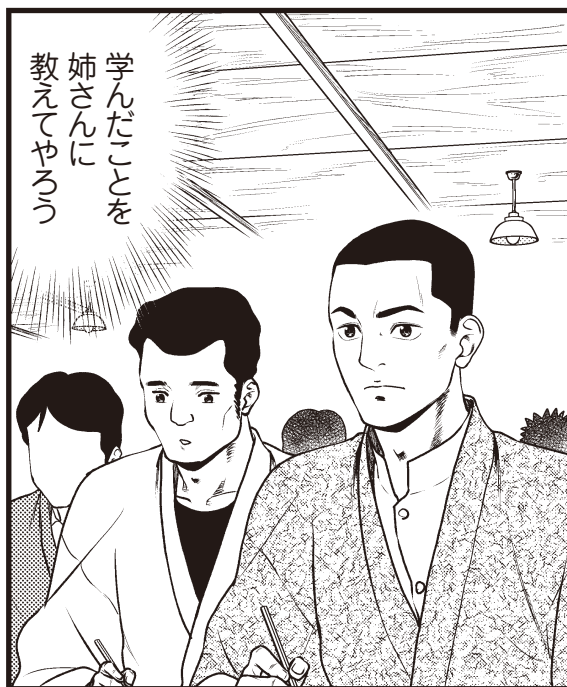
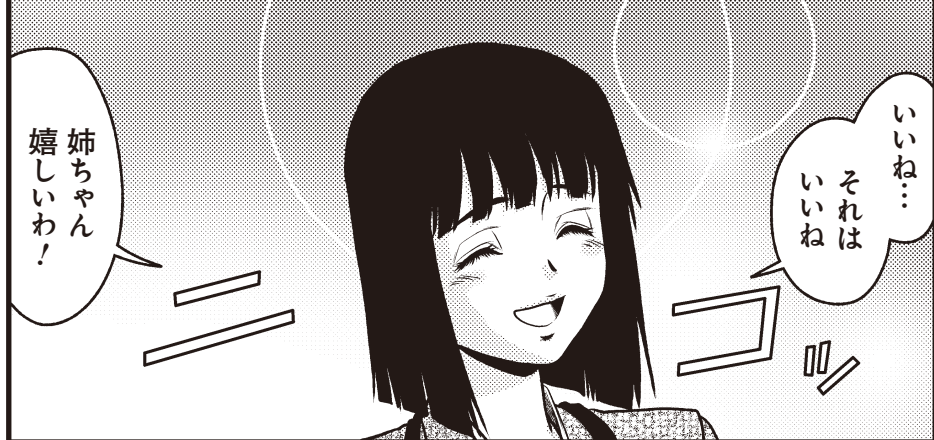
妙油寺^{たみゆでら}
住職である
小野日祥^{おののじつしょう}の
長男として誕生

寺の息子として
幼少期から
人を認めること
尊敬することを
学んでいた

幼名^{みのる}
法

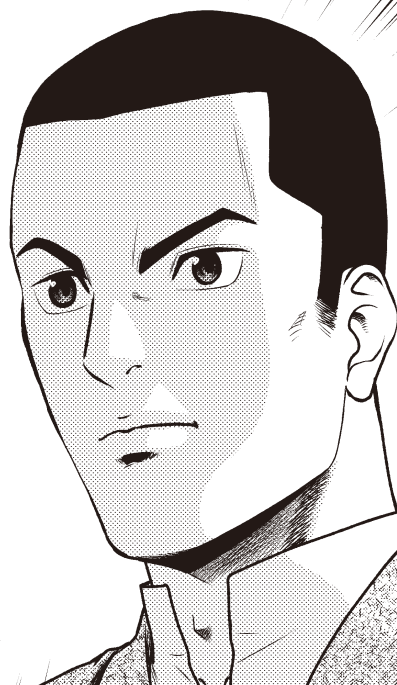
妙油寺





僕は
中学校を卒業したら
大学へ行きたい

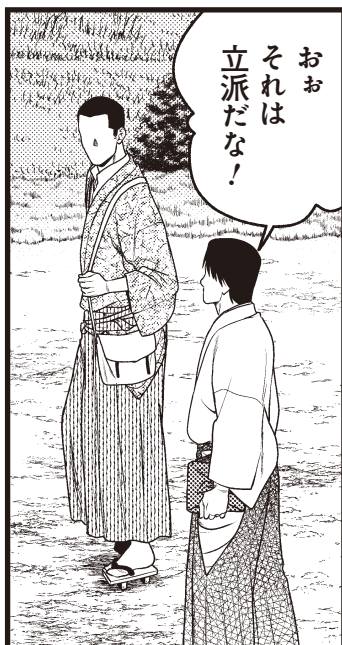
もっと勉強して
学校をつくるんだ!!



ああ
だから勉強を
がんばらなきゃな

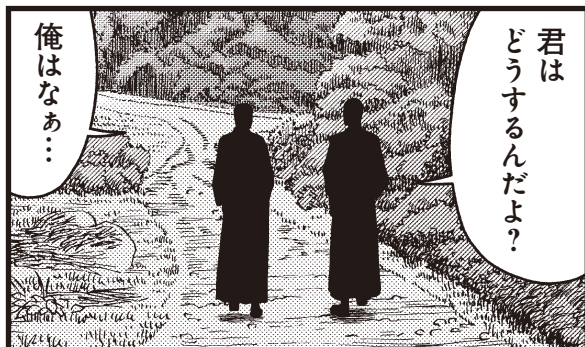
グッ

おお
それは
立派だな!



君は
どうするんだよ?

俺はなあ…



1918(大正7)年
7月 富山県中新川郡
東水橋町(現・富山市)
において

米価・物価高騰に
危機感を覚えた

新聞

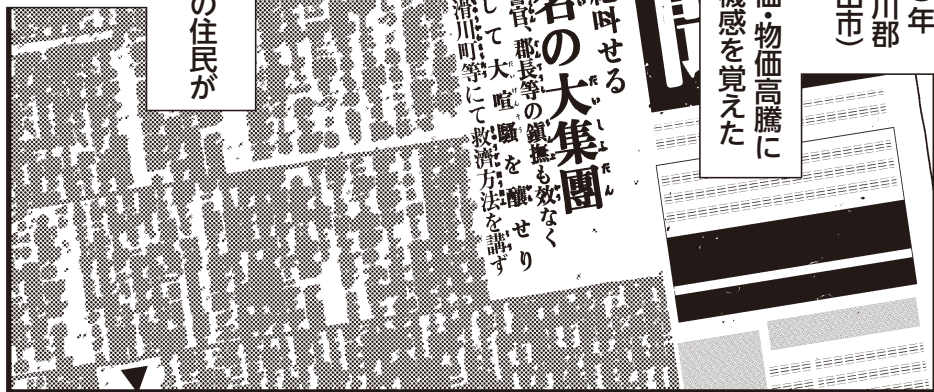
生活難を絶叫せる

二千名の大集団

◎警官、郡長等の鎮撫も効なく
殺到して大喧嘩を醸せり
本日の滑川町等にて救済方法を講ず

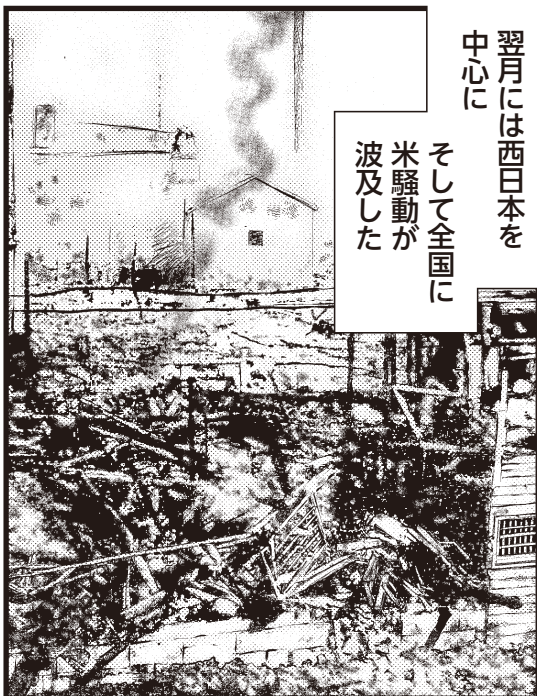
二十数人の住民が

港からの
米の搬出を
止めようとした
ことが発端となり

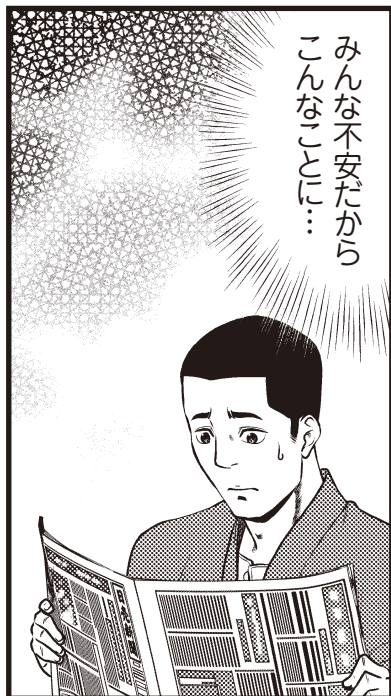


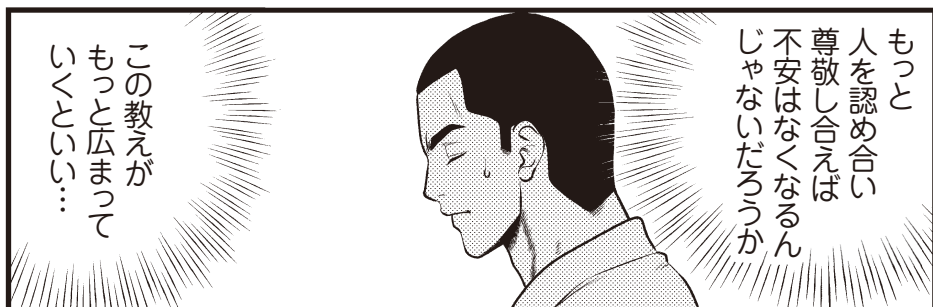
翌月には西日本を
中心に

そして全国に
米騒動が
波及した



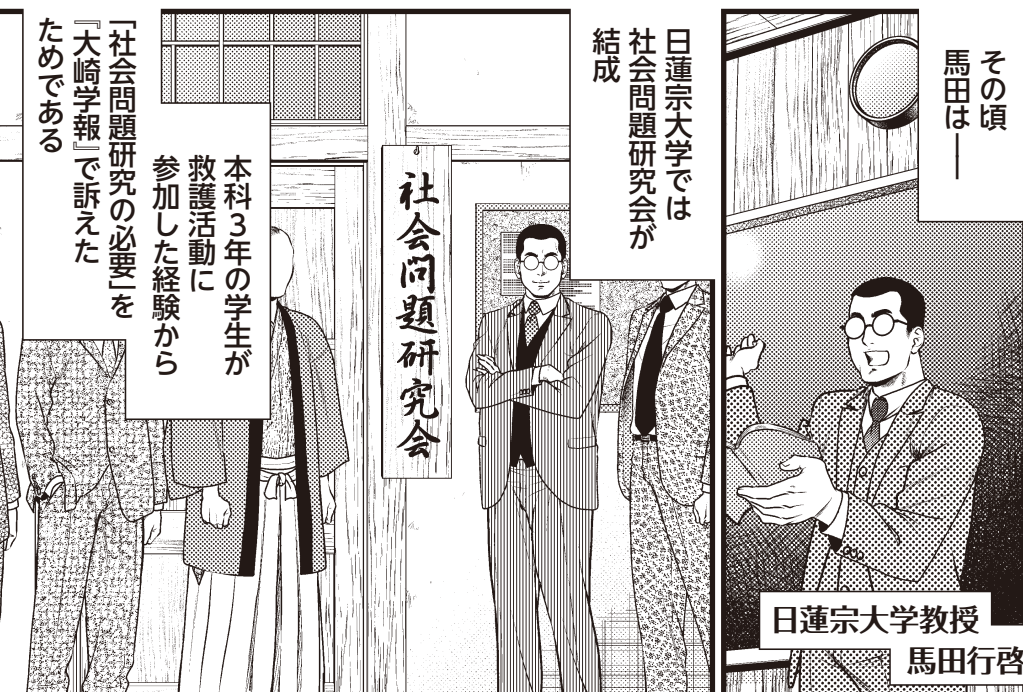
みんな不安だから
こんなことに…





もっと
人を認め合い
尊敬し合えば
不安はなくなるん
じゃないだろうか

この教えが
もっと広まって
いくといい…



その頃
馬田は――

日蓮宗大学では
社会問題研究会が
結成

本科3年の学生が
救護活動に
参加した経験から

「社会問題研究の必要」を
『大崎学報』で訴えた
ためである

社会問題研究会

日蓮宗大学教授
馬田行啓

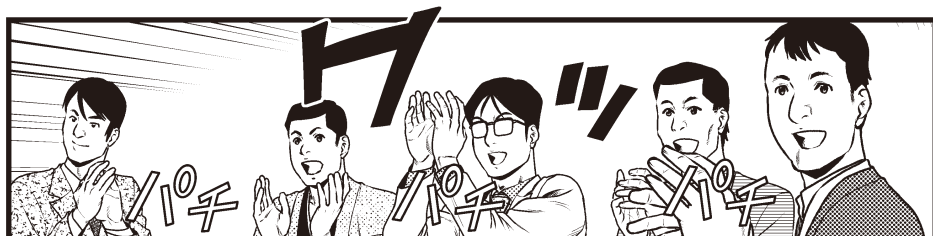
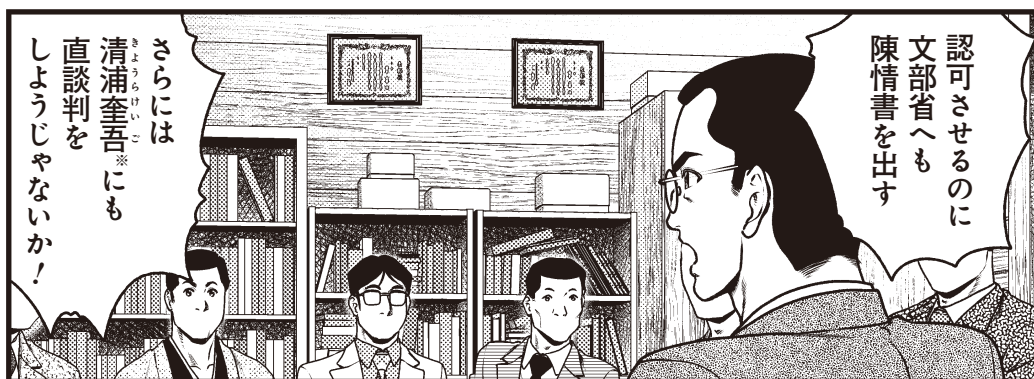


確かに
社会問題研究は
これから必要に
なるだろう

大事なのは
どうやって
社会問題を解決
していくかだ…



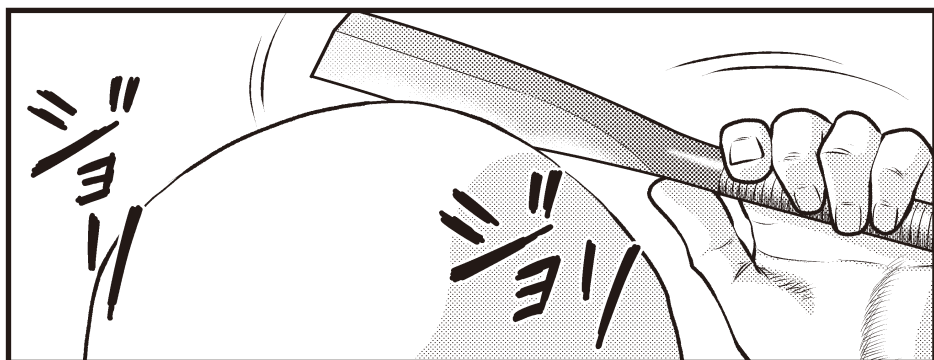
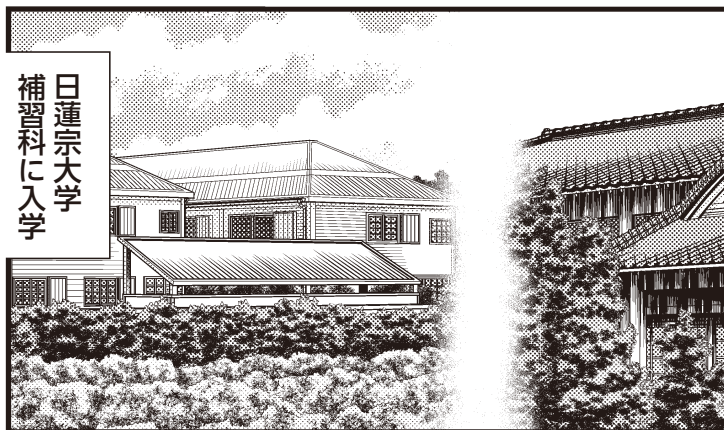
※当時の「大学」は帝国大学令に基づく帝国大学のみを指し、日蓮宗大学は専門学校令に基づいて専門教育を行う高等教育機関だった。1918(大正7)年に「大学令」が制定されて以降、専門学校を大学に昇格させようとする動きが起こった



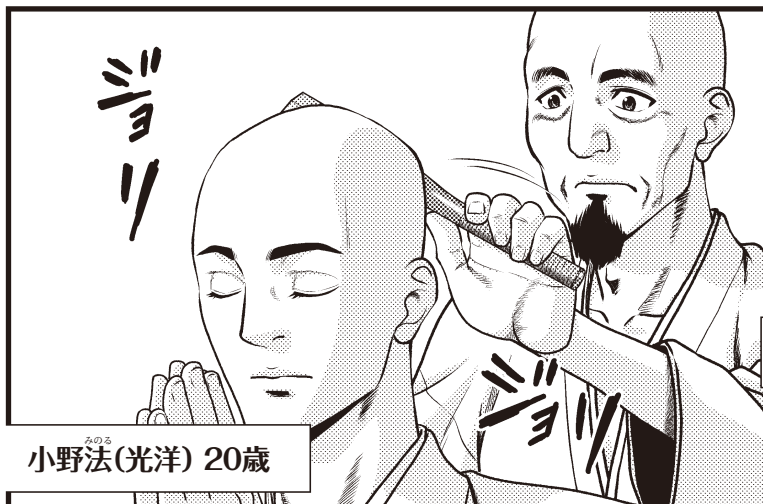
※当時の内閣総理大臣(第23代)

一方小野は
1918(大正7)年
山梨県立
甲府中学校を卒業し

日蓮宗大学
補習科に入学

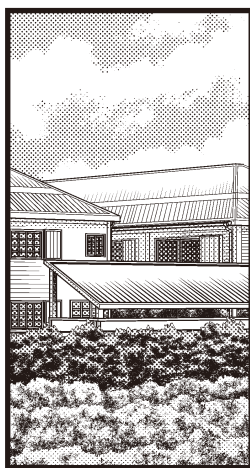
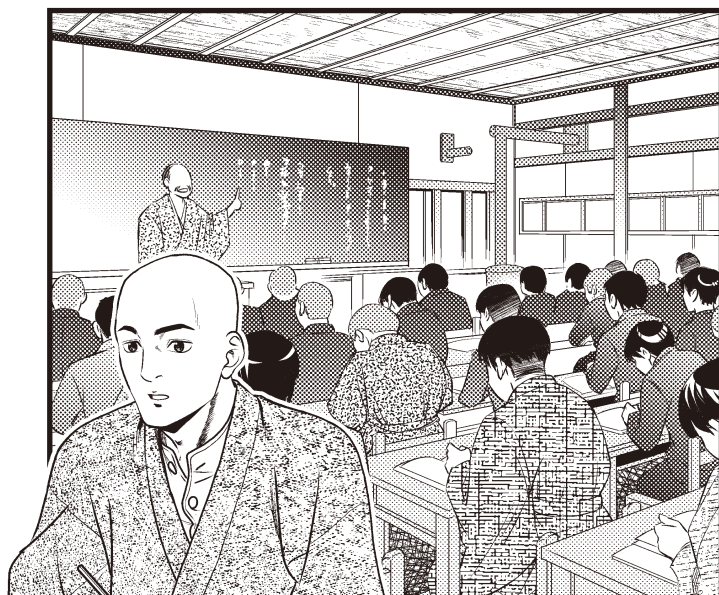
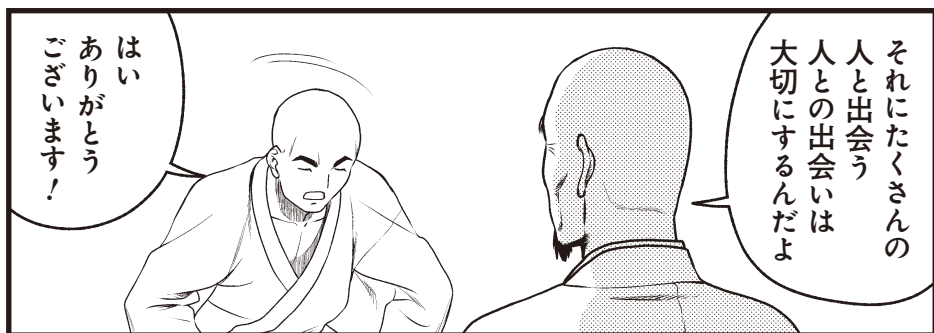
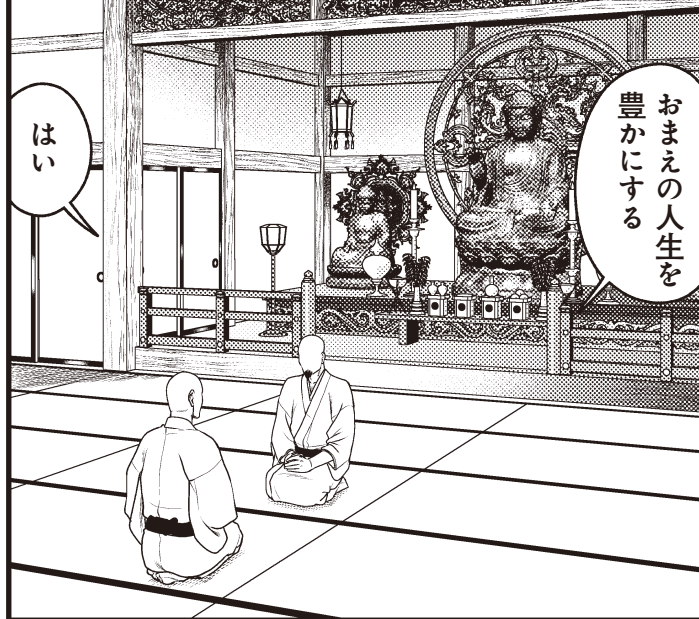


妙油寺住職
小野日祥の
徒弟として
剃髪し得度する



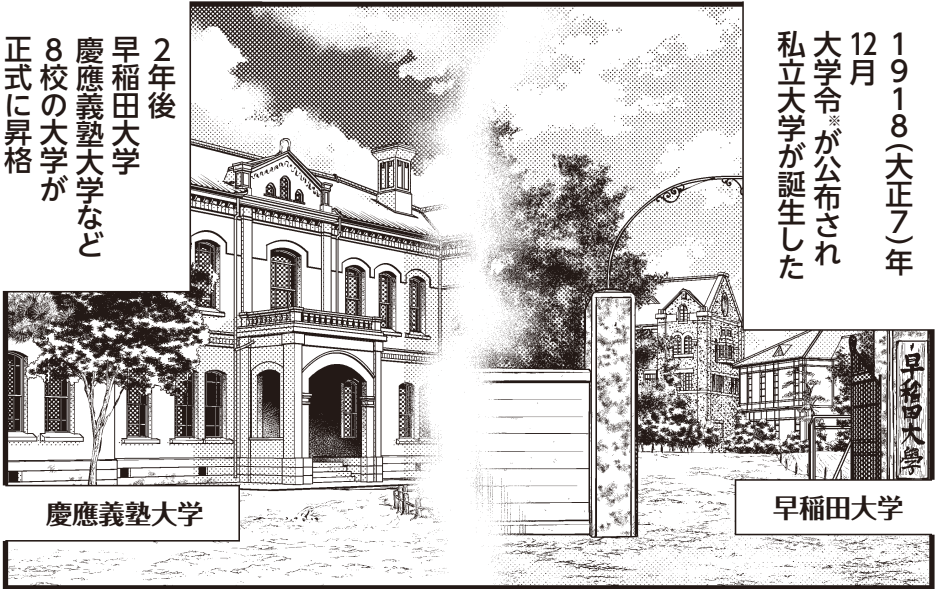
おの じっしゅう
小野日祥(父)

みのる
小野法(光洋) 20歳



1918(大正7)年
12月
大学令[※]が公布され
私立大学が誕生した

2年後
早稲田大学
慶應義塾大学など
8校の大学が
正式に昇格



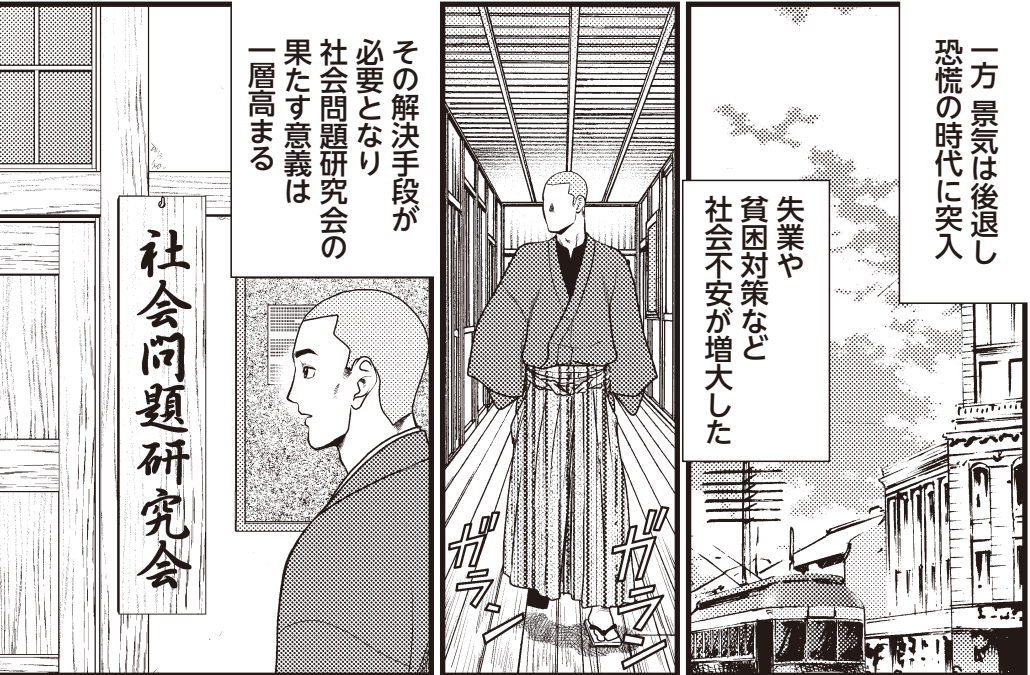
※1918年に公布された大学に関する法令で帝国大学
以外に公立・私立・単科大学の設立が認められた

一方景気は後退し
恐慌の時代に突入

失業や
貧困対策など
社会不安が増大した

その解決手段が
必要となり
社会問題研究会の
果たす意義は
一層高まる

社会問題研究会



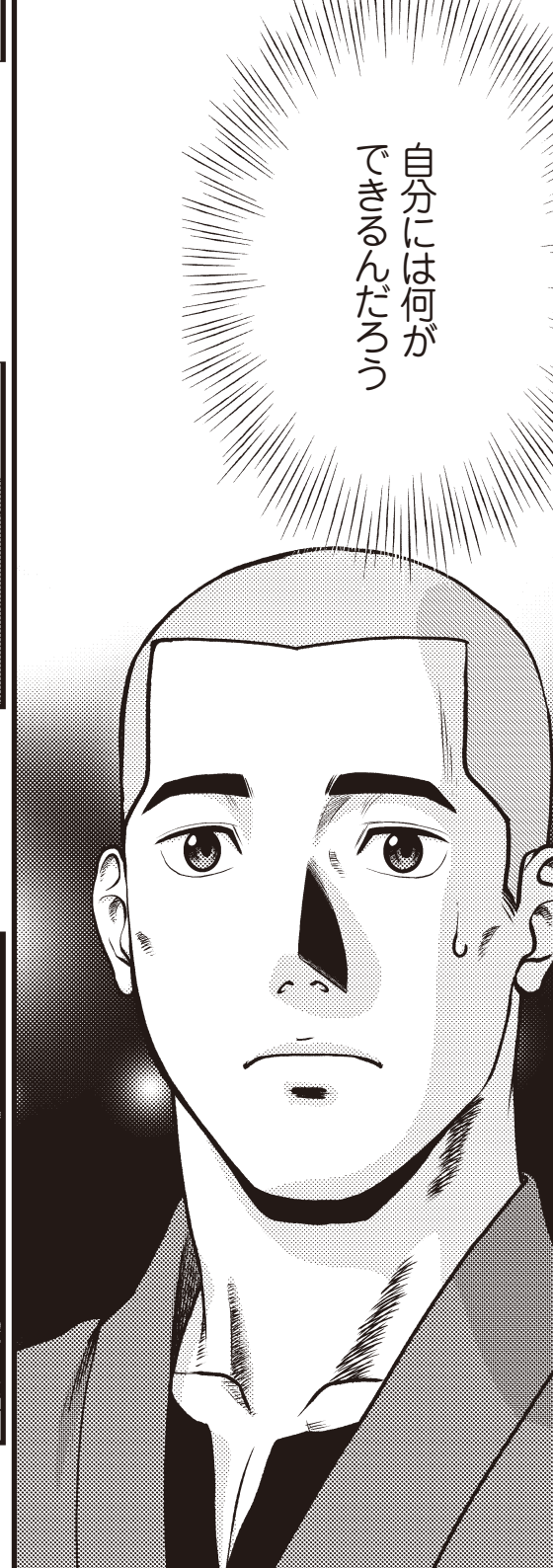
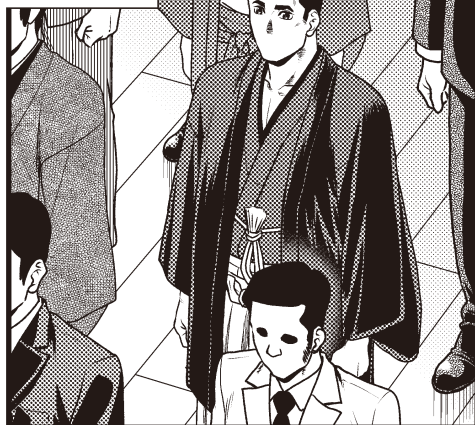
自分には何が
できるんだろう

立正大学

1924(大正13)年
日蓮宗大学が
専門学校から
大学へ昇格し
立正大学と改める

小野は
日蓮宗大学
本科卒業

1925(大正14)年
立正大学文学部
哲学科入学



馬田は教授
小野は学生として
立正大学で
勉学に励み――

そして
1927(昭和2)年
5月
馬田と小野は
同じ志にたどり着く



そうそう

俺
社会問題研究会の
総務になったんだ

さかもとたいご
阪本泰護

立正大学社会学科3年

ああ
聞いたよ
おめでとう！



